

(平 成 2 2 年 版)

大分県における救急の現況

大分県生活環境部消防保安室

「平成22年版大分県における救急の現況」の要点

1 救急業務の実施状況（H21）

1. 救急出動件数は減少・搬送人員は増加

平成21年中の救急自動車による救急出動件数は、前年比22件減の44,754件となり減少したものの、搬送人員は、前年比80人増の42,345人となった。

2. 管外搬送割合が過去最高

消防本部が傷病者を自らの管轄外の医療機関へ搬送した人数（管外搬送人員）については、前年比93人増の7,066人（対全搬送人員比16.7%）となり、過去最高となった。

また、管外搬送の割合が2%台の本部がある一方、50%を超える本部が3本部あるなど、地域間の差が顕著となっている。

3. 現場到着時間・病院収容時間が共に過去最長

現場到着までの平均所要時間については、前年比0.3分増の7.3分、病院収容までの平均所要時間については、前年比0.9分増の31.5分となり、共に過去最長となった。

2 救急搬送の状況（H21）

1. 「急病」の割合が微減

事故種別では「急病」が、53.3%と最も多く、これまで増加傾向にあったが、全体に占める割合は前年比0.1%減と微減し、過去3年間においてはほぼ横ばい状態にある。

2. 「高齢者」の割合が増加

年齢区分別では「高齢者」が、前年比0.5%増の56.6%と最も多く、増加傾向にある。

3. 「軽症」の割合が増加

傷病程度別では「中等症」が、44.1%と最も多くなっているが、「軽症」が前年比0.1%増の35.4%となっており、やや増加傾向にある。

3 救急業務の実施体制（H22. 4. 1）

1. 救急体制の充実及び救急業務高度化の進展

平成22年4月1日現在における救急隊員数は、前年比76名増の686名、そのうち救急救命士の資格を有する職員は、前年比20名増の222名となっている。

また、少なくとも1名が救急救命士である「救急救命士運用隊」数は、前年比4隊増の53隊で、全救急隊60隊に対して88.3%と増加している。

また、救急救命士による高度な処置が可能な「高規格救急自動車」は、全救急自動車73台に対し、53台（対全救急自動車比72.6%）となっている。

4 救急救命処置の実施状況（H21）

1. 救急救命士による特定行為実施件数の増加

平成21年中における救急救命士による特定行為実施件数については、前年比12件増の481件と、救急救命士の増加に伴い着実に増加している。

2. 市民（バイスタンダー）による応急手当の増加

平成21年中において、救急救命講習を受講した市民は、前年比2,294人減の10,179人と過去最高であった前年を下回ったが、3箇年連続で年間1万人を超えている。

また、全心肺機能停止搬送件数の42.4%に当たる414件（前年比0.9%増）で市民による応急手当が実施されており、心原性かつ心肺停止が市民に目撃された症例においては、1か月後の生存率が、応急処置がなされなかった場合よりも4.8%高くなっている。

1 救急業務の実施状況

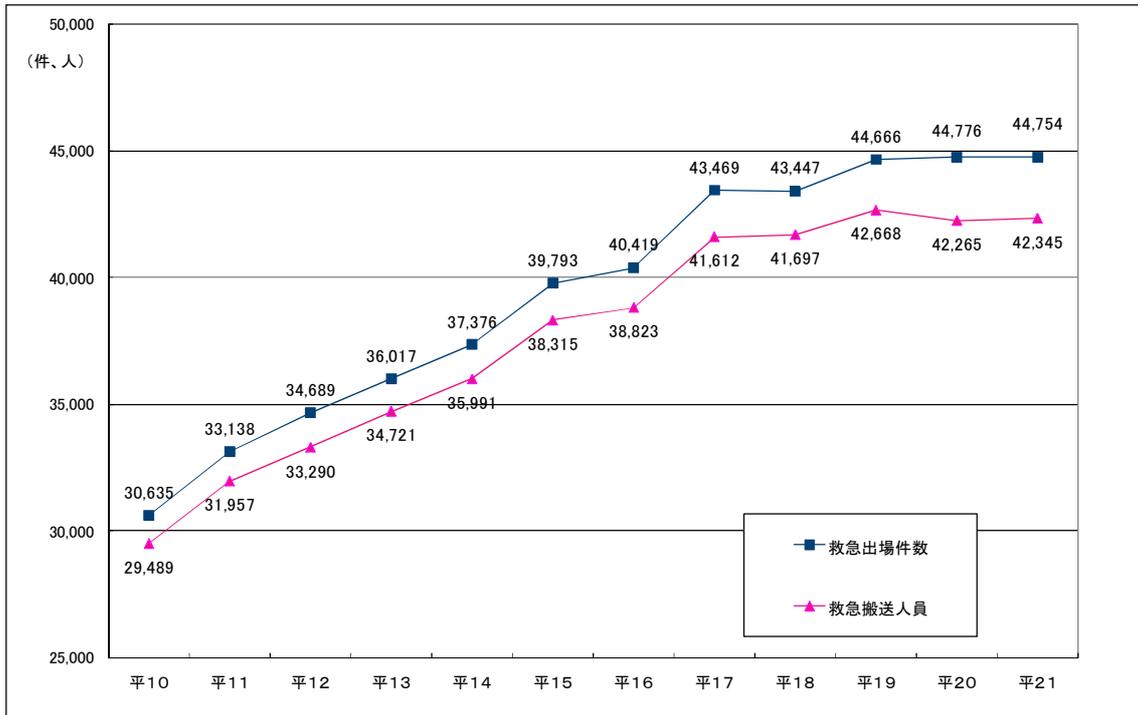
【平成 20 年中における救急業務の実施状況】

1. 救急出動件数 44,754 件（前年比 22 件減）
2. 救急搬送人員 42,345 人（前年比 80 人増）
3. うち管外搬送人員 7,066 人（前年比 93 人増）
【総搬送人員に占める割合 16.7 %（前年比 0.2%増）】
4. 現場到着所要時間 7.3 分（前年比 0.3 分増）
【全国平均 7.9 分】
5. 医療機関収容所要時間 31.5 分（前年比 0.9 分増）
【全国平均 36.1 分】

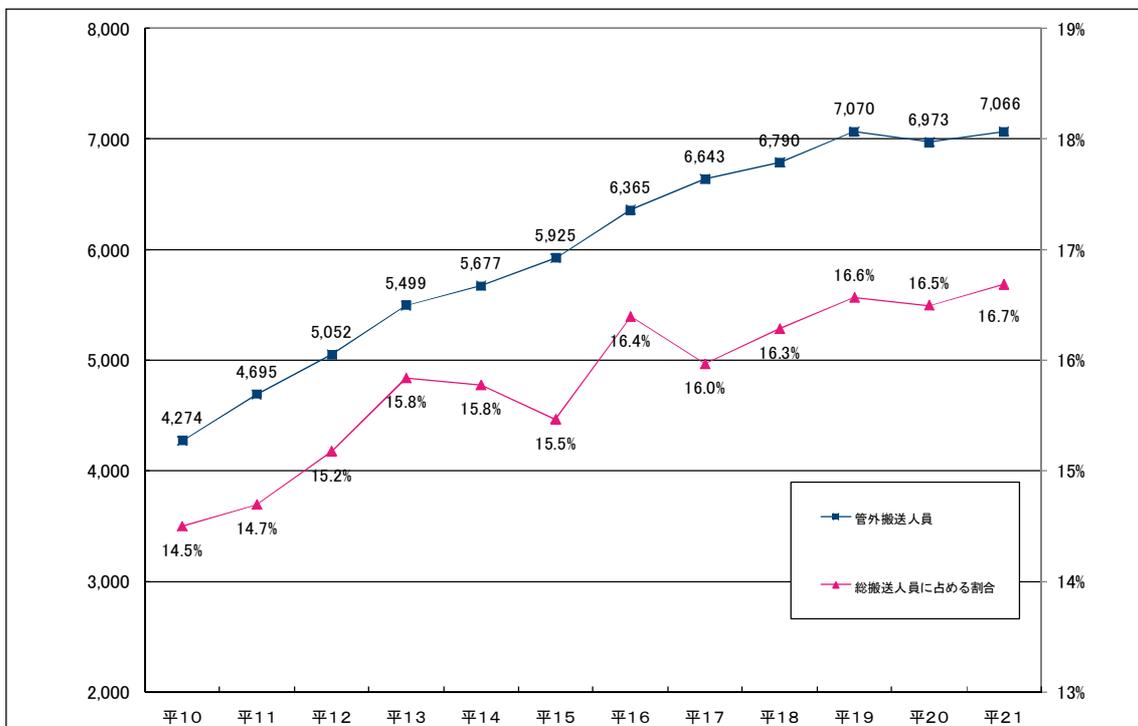
第 1 表 各消防本部における救急出動件数及び救急搬送人員（単位：件、人）

消防本部	救急出動件数 (件)		救急搬送人員 (人) (a)		うち管外搬送 (人)(b)		管外搬送率 b/a(%)	
		前年比		前年比		前年比		前年比
大分市消防局	14,924	△ 24	13,955	△ 12	543	0	3.9%	0.0
別府市消防本部	5,324	△ 90	5,023	△ 46	139	18	2.8%	0.4
中津市消防本部	3,392	89	3,210	64	440	10	13.7%	0.0
佐伯市消防本部	2,562	△ 41	2,471	9	184	△ 7	7.4%	△ 0.3
臼杵市消防本部	1,842	37	1,740	△ 7	631	35	36.3%	2.1
津久見市消防本部	936	56	893	46	242	59	27.1%	5.5
竹田市消防本部	1,248	△ 46	1,207	△ 54	574	16	47.6%	3.3
豊後高田市消防本部	1,196	△ 5	1,130	△ 22	590	△ 5	52.2%	0.6
宇佐市消防本部	2,654	△ 81	2,546	△ 57	527	△ 18	20.7%	△ 0.2
豊後大野市消防本部	1,874	27	1,791	38	704	61	39.3%	2.6
由布市消防本部	1,599	46	1,528	71	817	△ 34	53.5%	△ 4.9
国東市消防本部	1,353	△ 18	1,296	△ 23	250	28	19.3%	2.5
日田玖珠広域消防組合消防本部	3,609	104	3,476	129	308	△ 60	8.9%	△ 2.1
杵築速見消防組合消防本部	2,241	△ 76	2,079	△ 56	1,117	△ 10	53.7%	0.9
県計	44,754	△ 22	42,345	80	7,066	93	16.7%	0.2

第1図 救急出動件数及び救急搬送人員の推移



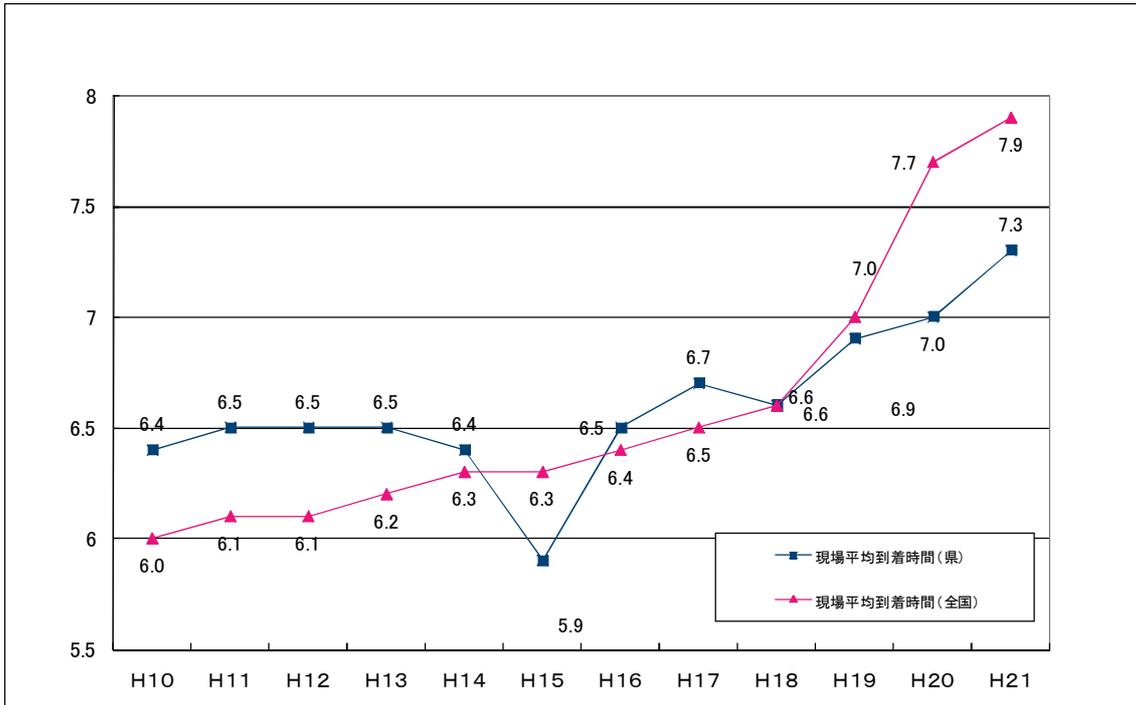
第2図 管外搬送人員の推移



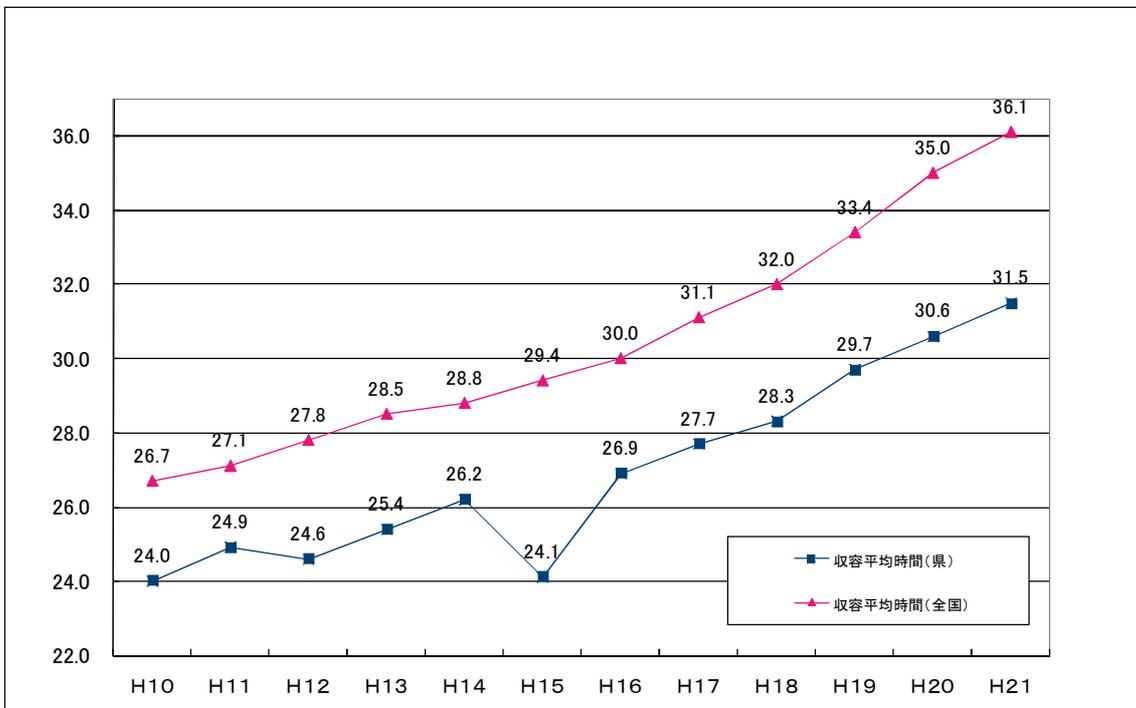
第2表 各消防本部における現場平均到着所要時間及び収容平均所要時間

消防本部	現場到着 平均所要時間(分)		収容 平均所要時間(分)	
		前年比		前年比
大分市消防局	7.0	0.8	26.5	1.1
別府市消防本部	6.3	△ 0.3	26.0	0.4
中津市消防本部	8.9	0.3	35.6	0.0
佐伯市消防本部	7.1	0.0	32.0	1.0
臼杵市消防本部	7.4	△ 0.2	30.8	0.8
津久見市消防本部	6.0	△ 0.4	31.7	△ 0.2
竹田市消防本部	8.1	0.4	45.1	1.6
豊後高田市消防本部	7.2	△ 0.1	37.7	0.6
宇佐市消防本部	7.6	0.5	33.7	1.4
豊後大野市消防本部	6.9	0.0	37.1	1.3
由布市消防本部	6.7	0.1	34.8	0.3
国東市消防本部	8.0	0.3	43.5	2.8
日田玖珠広域消防組合消防本部	8.6	0.0	35.5	△ 0.2
杵築速見消防組合消防本部	7.6	0.4	35.4	1.7
県計	7.3	0.3	31.5	0.9

第3図 現場平均到着所要時間の推移



第4図 収容平均所要時間の推移



2 救急搬送の状況

【平成21年中における救急搬送の状況】

1. 事故種別搬送状況

「急病」が最も多く【22,582人(53.3%)】、増加傾向【前年比27人増、0.1%減】にあるが、過去3箇年においては、ほぼ横ばい状態にある。

その他の区分は、近年、横ばい状態である。

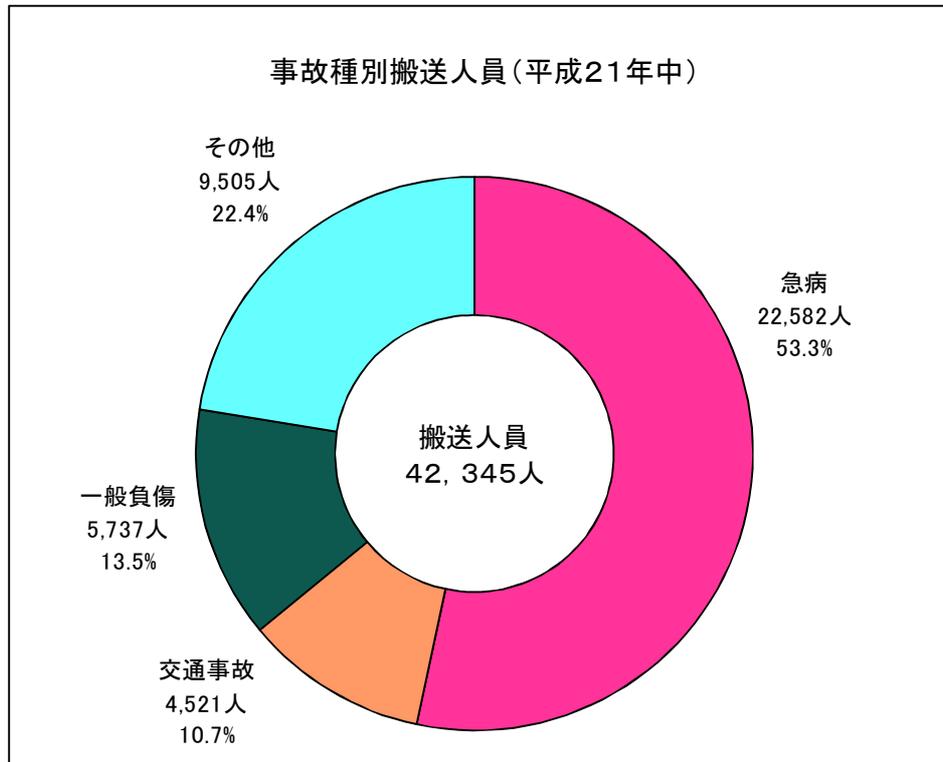
2. 年齢区分別搬送状況

「高齢者」が最も多く【23,985人(56.6%)】、増加傾向【前年比283人、0.5%増】にある。

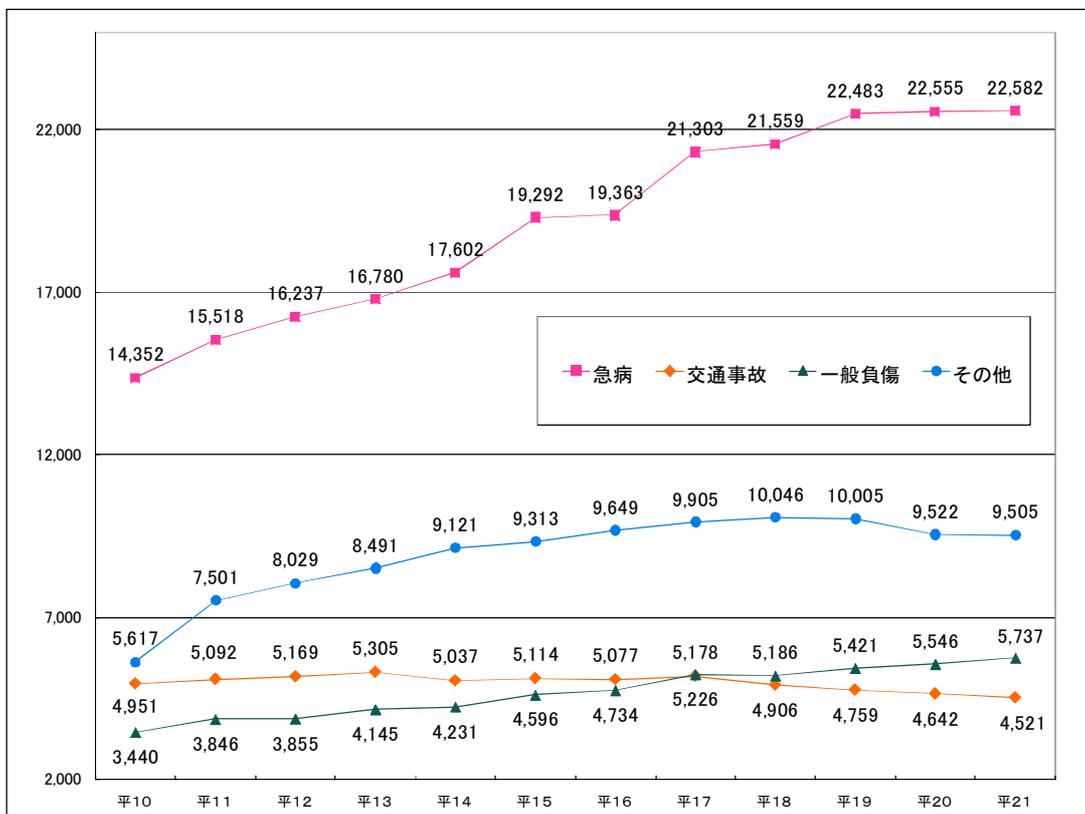
3. 傷病程度別搬送状況

「中等症」が【18,667人(44.1%)】と最も多いが、「軽症」【14,989人(35.4%)】がやや増加傾向【前年比72人、0.1%増】にある。

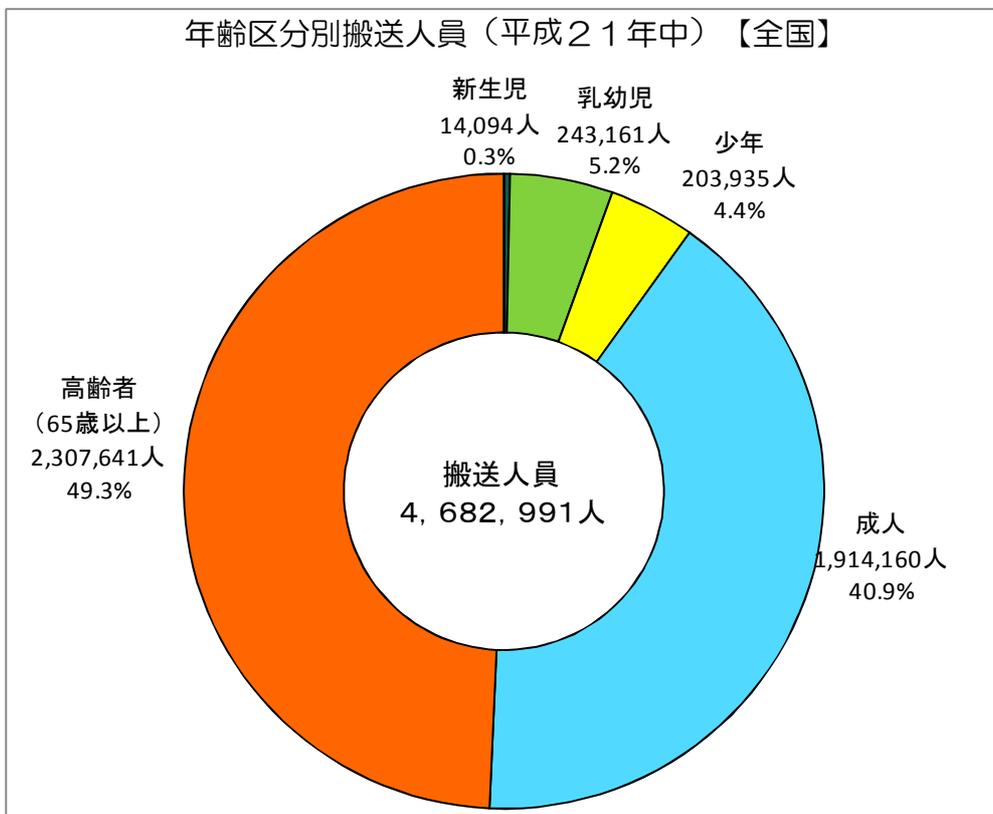
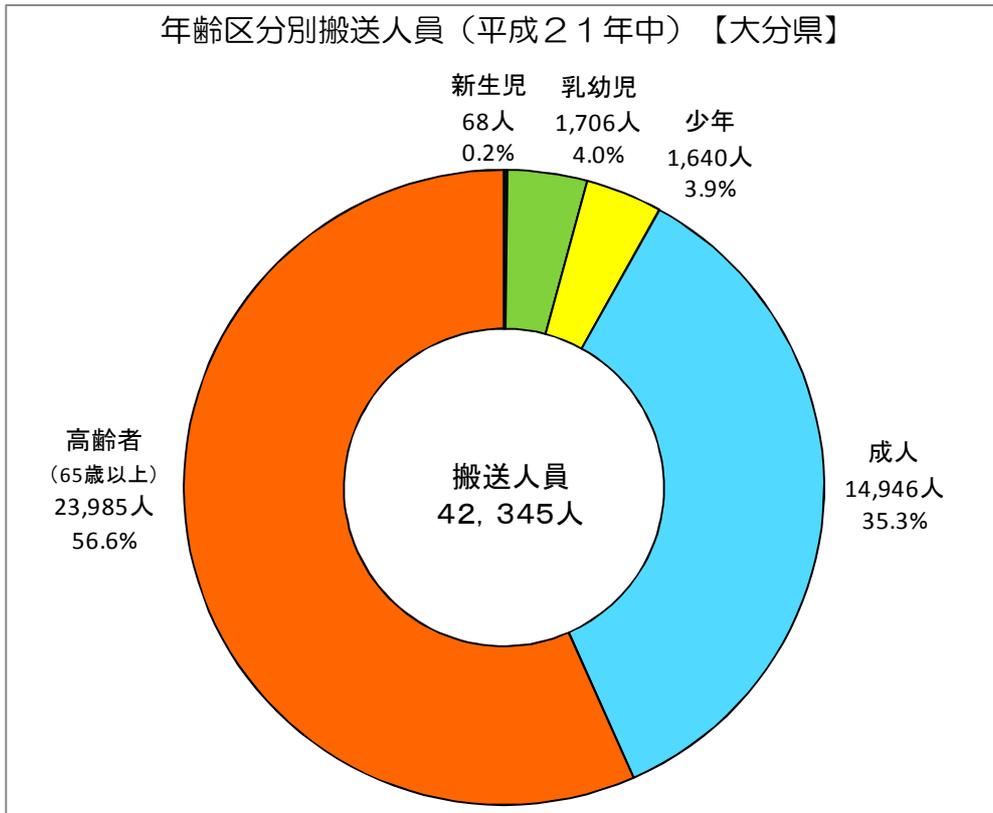
第5図 事故種別搬送人員



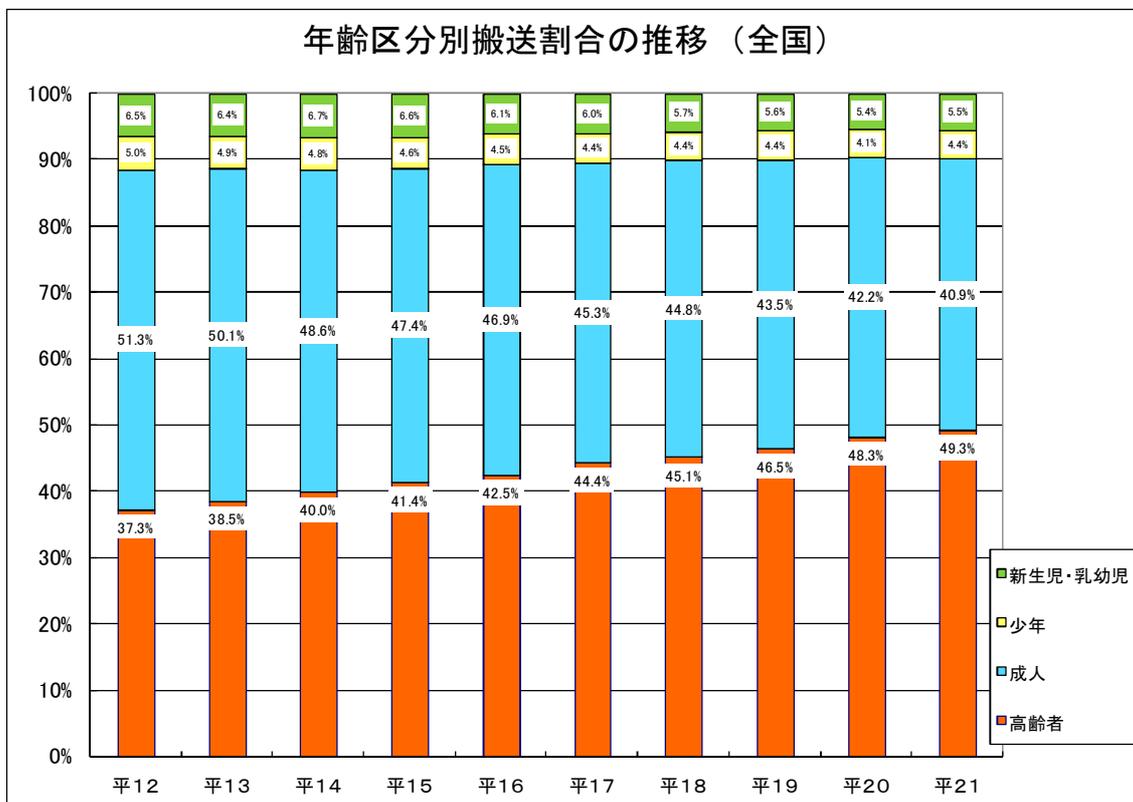
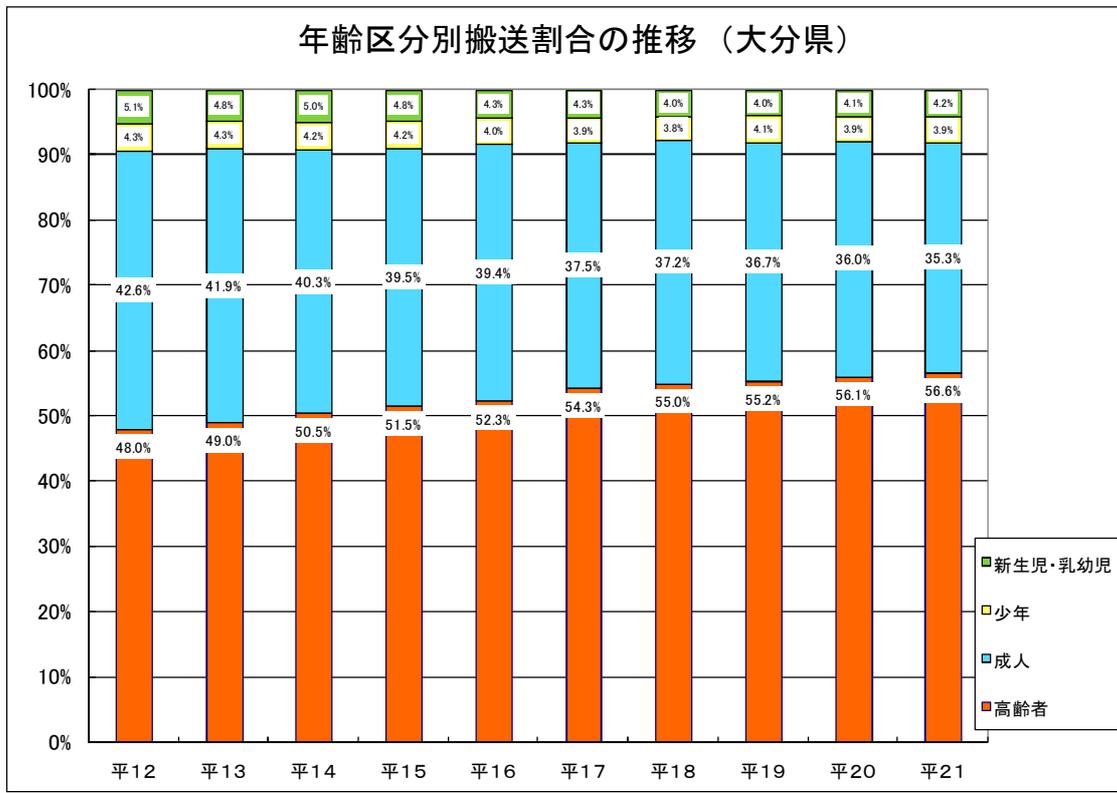
第6図 事故種別搬送人員の推移



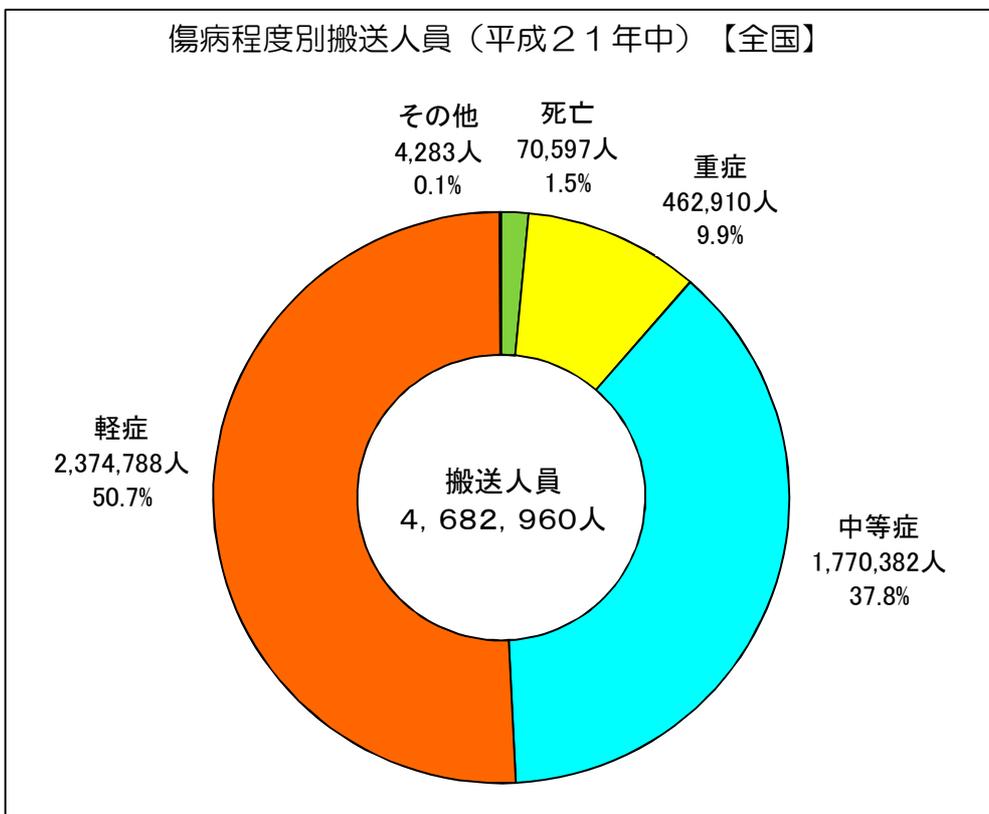
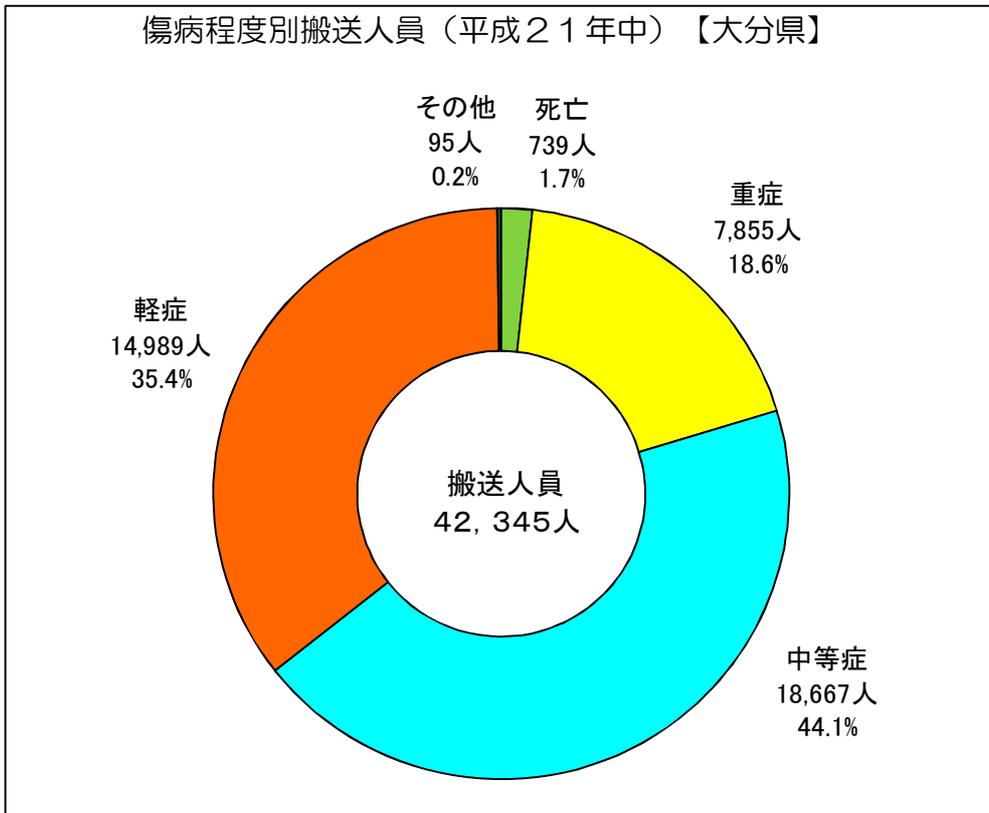
第7図 年齢区分別搬送人員



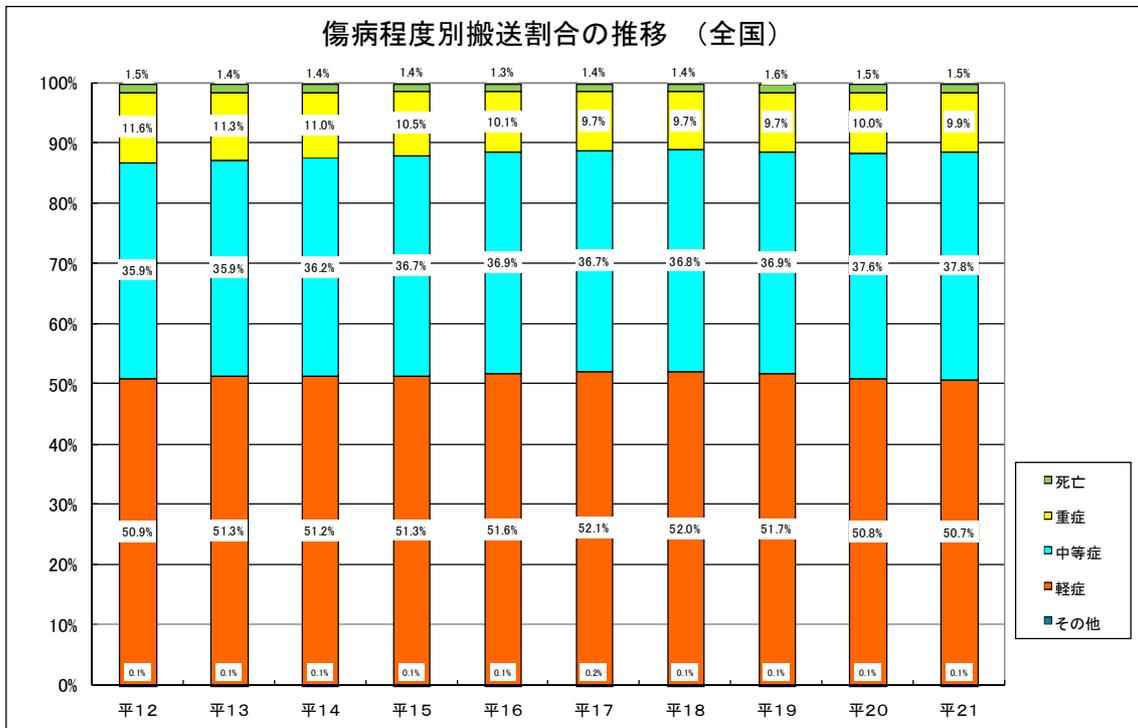
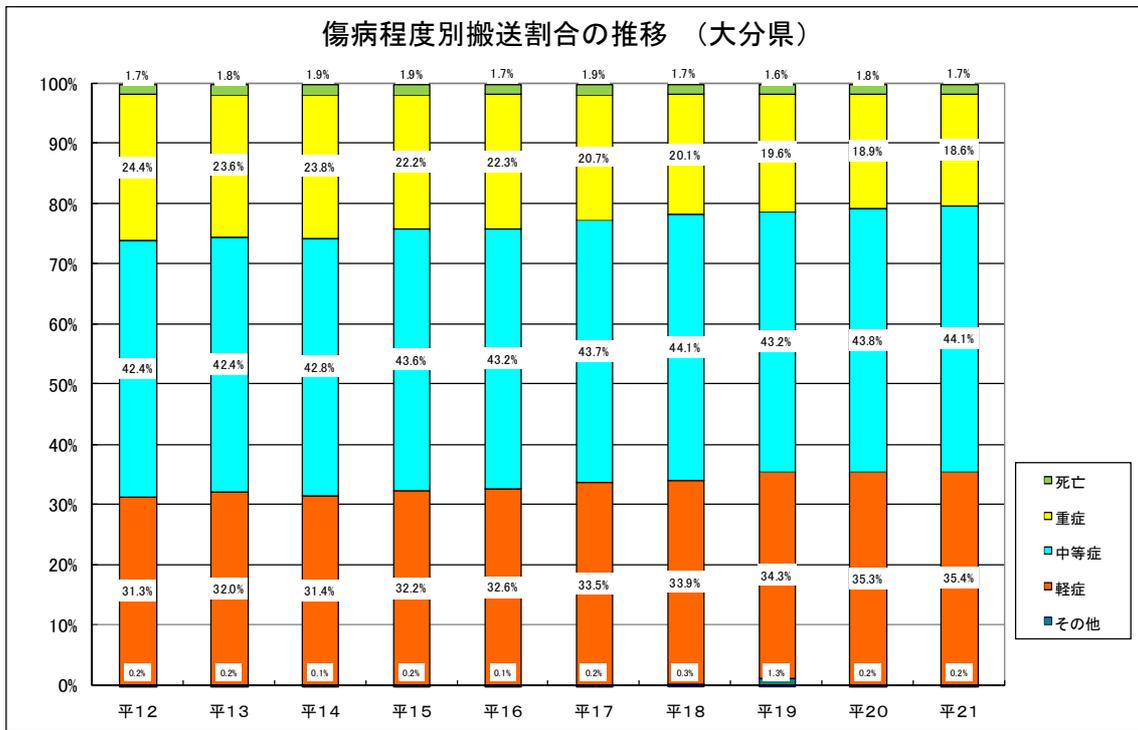
第8図 年齢区分別搬送割合の推移



第9図 傷病程度別搬送人員



第10図 傷病程度別搬送割合の推移



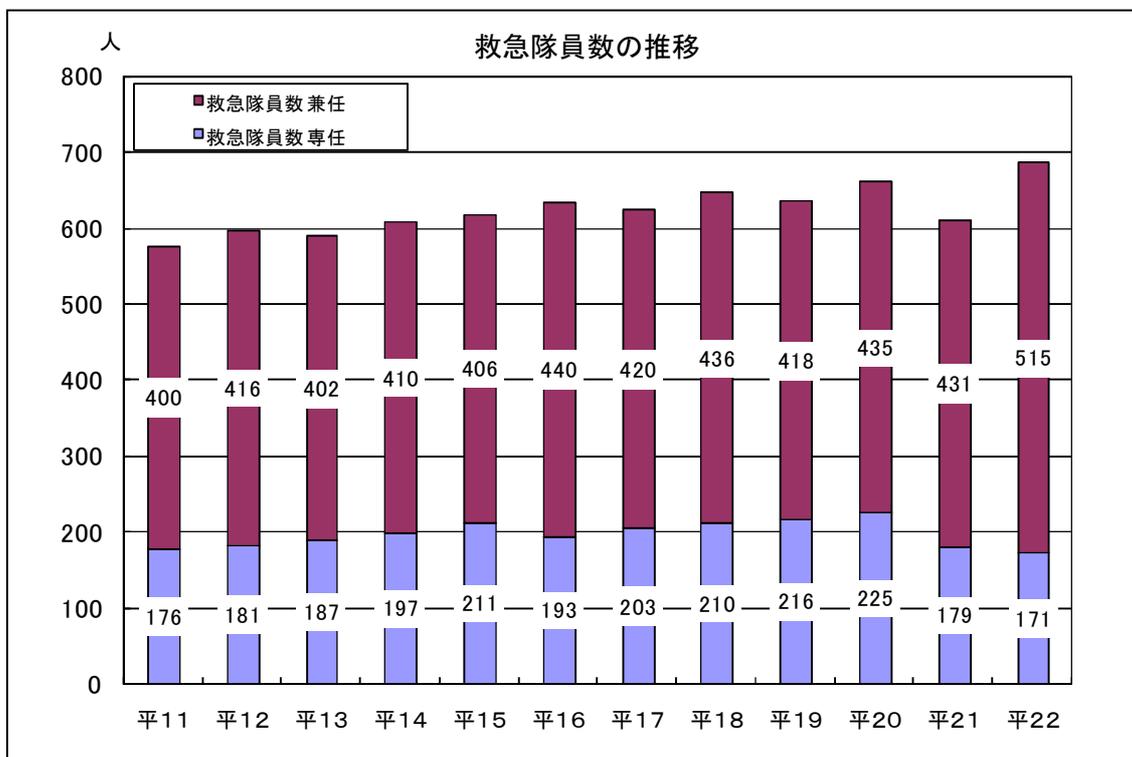
3 救急業務の実施体制

【平成 22 年 4 月 1 日現在の救急業務実施体制】

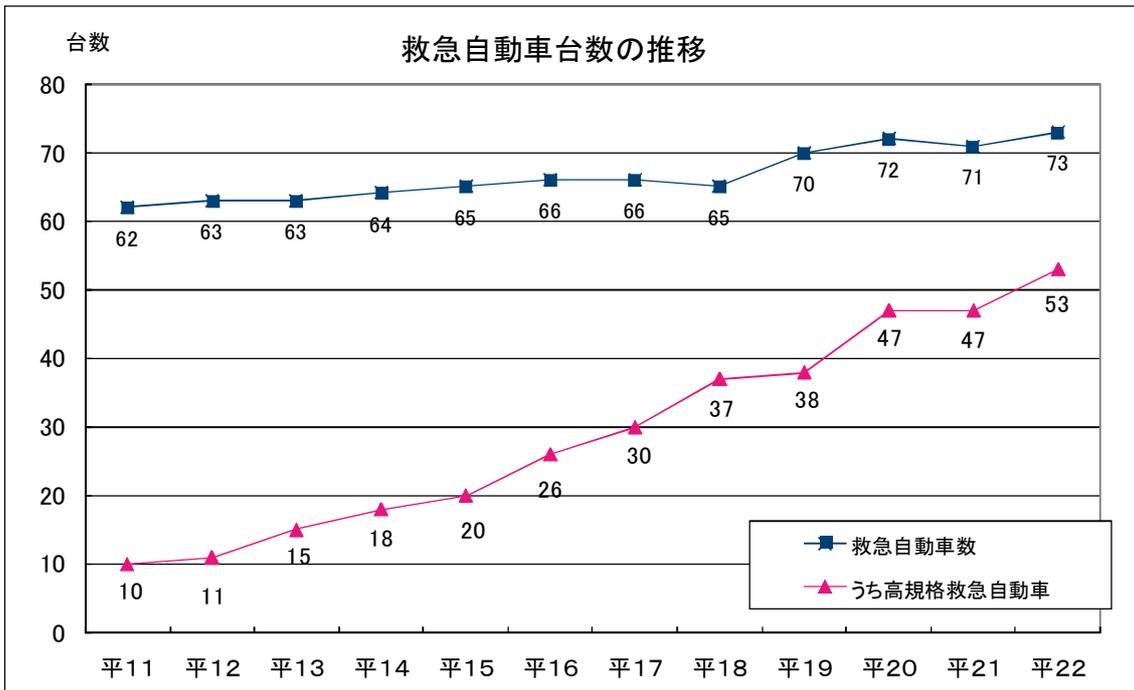
1. 救急業務実施消防本部数 14 本部（前年同）
2. 救急隊数 60 隊（前年比 1 隊増）
3. 救急隊員数 686 名（前年比 76 名増）
4. 救急自動車数 73 台（前年比 2 台増）
5. うち高規格救急自動車 53 台（前年比 6 台増）
6. 高規格救急自動車導入率 72.6 %（前年比 6.4%増）

【全国平均 83.1 %】

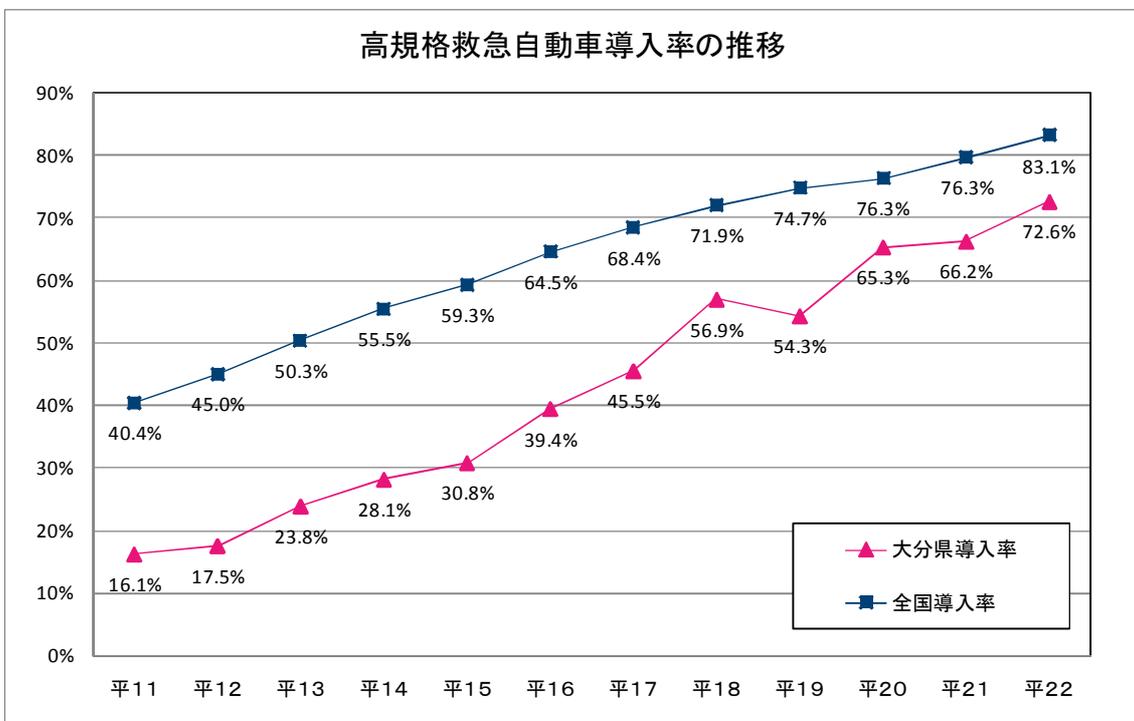
第 1 1 図 救急隊員数の推移



第12図 救急自動車台数の推移



第13図 高規格救急自動車導入率の推移



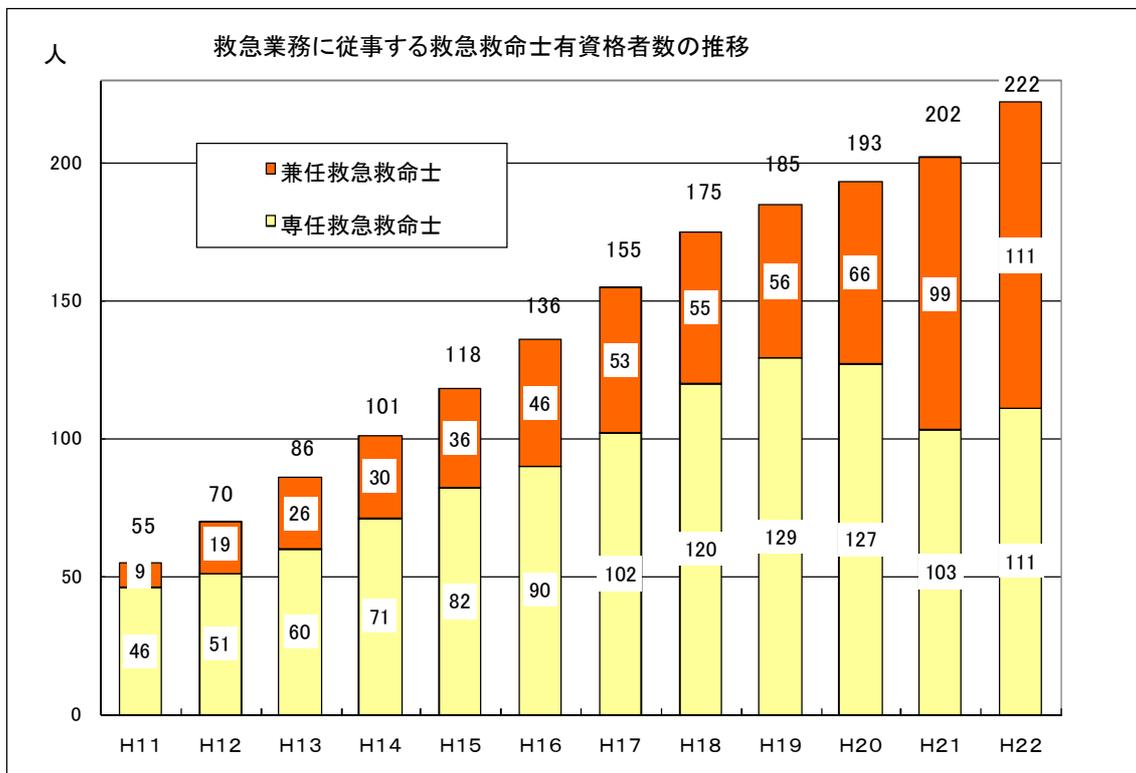
【平成 22 年 4 月 1 日現在の救急救命士活動状況】

1. 救急救命士有資格者数	260 名（前年比 23 名増）
2. うち救急業務従事者数	222 名（前年比 20 名増）
3. うち救急業務専任者数	111 名（前年比 8 名増）
4. 救急救命士運用隊数	53 隊（前年比 4 隊増）
5. 救急救命士運用率	88.3 %（5.2%増） 【全国平均 93.1%】
（救急救命士所属隊数／総救急隊数）	

第 3 表 各消防本部における救急業務に従事する救急救命士数（単位：人）

消防本部	救急救命士 有資格者数	救急業務に従事する救急救命士		
			うち専任	うち兼任
大分市消防局	61	56	4	52
別府市消防本部	25	16	2	14
中津市消防本部	18	16	8	8
佐伯市消防本部	19	14		14
臼杵市消防本部	12	12		12
津久見市消防本部	11	7	7	
竹田市消防本部	10	10	10	
豊後高田市消防本部	11	10	10	
宇佐市消防本部	17	15	10	5
豊後大野市消防本部	18	14	14	
由布市消防本部	12	12	12	
国東市消防本部	11	8	8	
日田玖珠広域消防組合消防本部	18	16	16	
杵築速見消防組合消防本部	17	16	10	6
県計	260	222	111	111

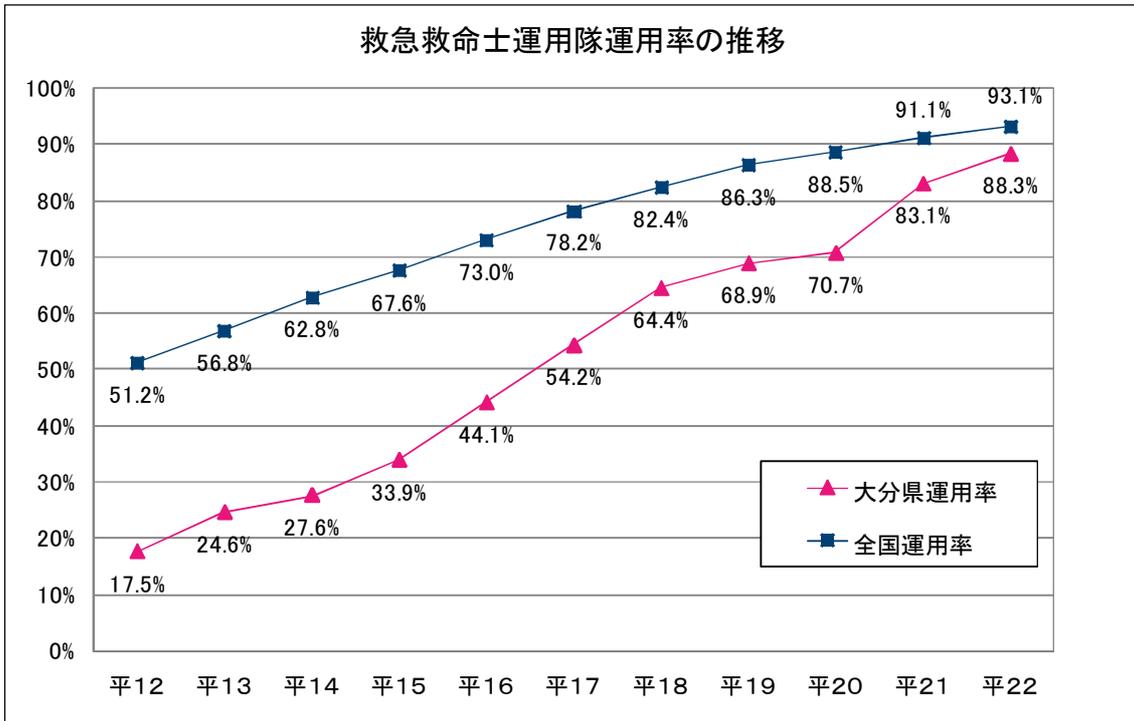
第14図 救急業務に従事する救急救命士有資格者数の推移



第4表 各消防本部における救急救命士運用率

消防本部名	署所数	救急隊数	救急救命士運用隊数			
			運用隊数		うち常時	
			隊数	運用率	隊数	運用率
大分市消防局	13	12	12	100.0%	12	100.0%
別府市消防本部	4	4	4	100.0%	4	100.0%
中津市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
佐伯市消防本部	6	6	4	66.7%	3	50.0%
臼杵市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
津久見市消防本部	1	2	1	50.0%	1	50.0%
竹田市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
豊後高田市消防本部	2	2	2	100.0%	2	100.0%
宇佐市消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
豊後大野市消防本部	4	4	4	100.0%	1	25.0%
由布市消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
国東市消防本部	5	4	2	50.0%	2	50.0%
日田玖珠広域消防組合消防本部	5	8	6	75.0%	2	25.0%
杵築速見消防組合消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
計	55	60	53	88.3%	45	75.0%

第15図 救急救命士運用率の推移



4 救急救命処置の実施状況

【平成 21 年中における救急隊員による救急救命処置の実施状況】

気管挿管実施認定救命士及び薬剤投与実施認定救命士の増加により、器具による気道確保（気管挿管）、静脈路確保、薬剤投与の各特定行為実施件数について、大幅な増加が見られる。

1. 除細動	171 件（前年比 7 件減）
2. 静脈路確保	138 件（前年比 21 件増）
3. 器具による気道確保	298 件（前年比 13 件減）
うち気管挿管	130 件（前年比 2 件増）
4. 薬剤投与	48 件（前年比 7 件増）

第 5 表 救急救命処置実施件数（単位：件）

消防本部	除細動	静脈路確保	器具による気道確保		薬剤投与
				うち気管挿管	
大分市消防局	48	25	63	24	12
別府市消防本部	33	23	44	15	3
中津市消防本部	13	16	38	11	8
佐伯市消防本部	7	9	17	4	5
臼杵市消防本部	5	18	17	7	3
津久見市消防本部	1		2	1	
竹田市消防本部	6		6	4	
豊後高田市消防本部	8	4	14	10	2
宇佐市消防本部	5	11	20	7	5
豊後大野市消防本部	9		5	4	
由布市消防本部	11	12	12	3	2
国東市消防本部	13	10	15	8	2
日田玖珠広域消防組合消防本部	6	5	29	19	3
杵築速見消防組合消防本部	6	5	16	13	3
県計	171	138	298	130	48

※「器具による気道確保」には、経鼻エアウェイにより気道確保を行った件数及び喉頭鏡・鉗子等を使用して異物除去を行った件数を除く

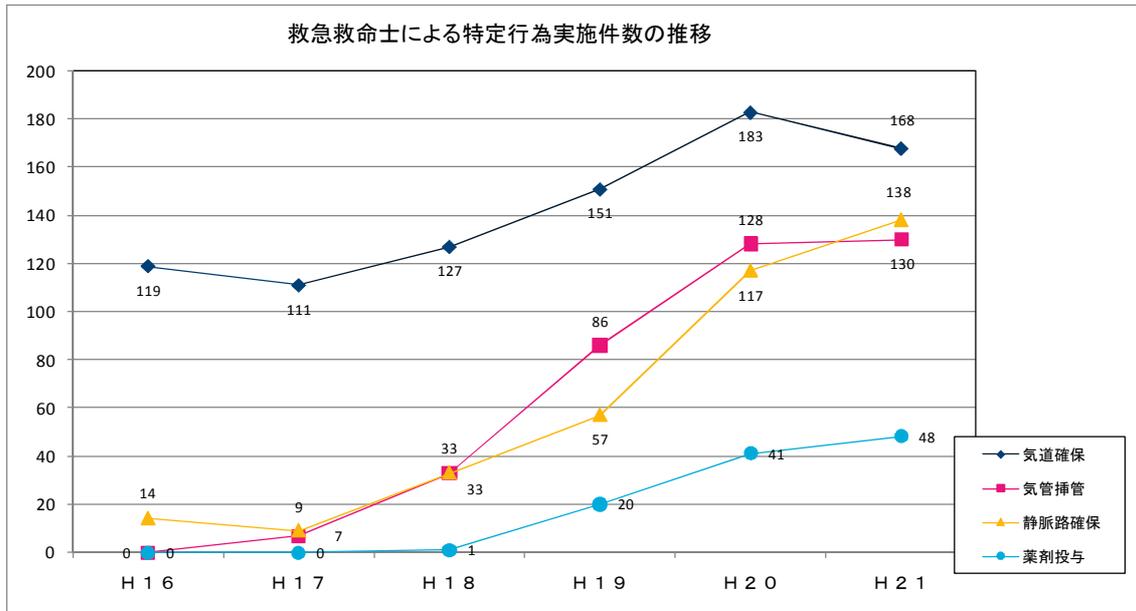
第6表 救急救命士による特定行為の実施状況

対象年	救急救命士数 (運用数)	気管挿管 認定者数	薬剤投与 認定者数	対象年	救急出動件数	気道確保 ※1	気管挿管 ※2	静脈路確保	薬剤投与
H17.4.1	155	—	—	平成16年中	40,419	119	—	14	—
H18.4.1	175	11	2	平成17年中	43,469	111	7	9	—
H19.4.1	185	30	18	平成18年中	43,447	127	33	33	1
H20.4.1	193	46	33	平成19年中	44,666	151	86	57	20
H21.4.1	202	71	73	平成20年中	44,776	183	128	117	41
H22.4.1	222	96	92	平成21年中	44,754	168	130	138	48

※1 救急救命士がラリングアルマスク等（LT、WB、CB、EGTA等）を使用して行ったもの

※2 救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行ったもの

第16図 救急救命士による特定行為実施件数の推移



【平成 21 年中における市民による応急処置の実施状況】

平成 21 年中に消防機関が行った応急手当普及講習の修了者数は、10,179 人（前年比 2,294 人減）となっている。

また、全心肺機能停止搬送事案の 42.4%に当たる 414 件（前年比 0.9%増）で市民による応急手当が実施されている。

心原性かつ心肺停止が市民に目撃された症例においては、1 か月後の生存率が、応急処置がなされなかった場合の 4.8%高くなっている。

第 7 表 応急手当普及講習修了者数の推移

区分	住民に対する応急手当普及講習修了者数		
	普通救命講習	上級救命講習	合計
平成7年	847	94	941
平成8年	1,790	100	1,890
平成9年	2,525	122	2,647
平成10年	2,981	69	3,050
平成11年	3,274	88	3,362
平成12年	3,722	131	3,853
平成13年	4,698	365	5,063
平成14年	5,064	353	5,417
平成15年	5,850	540	6,390
平成16年	5,406	479	5,885
平成17年	7,804	472	8,276
平成18年	9,021	520	9,541
平成19年	11,599	301	11,900
平成20年	12,092	381	12,473
平成21年	9,767	412	10,179
合計	86,440	4,427	90,867

第 8 表 市民による応急手当実施状況

年度	心肺停止搬送件数													
	うち一般市民による応急処置あり	応急手当実施率	うち心原性でかつ心肺停止の時点が一般市民により目撃された症例	うち一般市民による応急処置あり						うち一般市民による応急処置なし				
				1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数		1か月後生存者数		1か月後社会復帰者数				
				1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率	1か月後社会復帰率	1か月後生存率	1か月後社会復帰率					
H17	883	284	32.2%	145	57	3	5.3%	2	3.5%	88	4	4.5%	1	1.1%
H18	857	252	29.4%	150	49	4	8.2%	2	4.1%	101	6	5.9%	2	2.0%
H19	879	339	38.6%	131	66	8	12.1%	4	6.1%	65	11	16.9%	2	3.1%
H20	1013	420	41.5%	183	77	15	19.5%	8	10.4%	106	10	9.4%	2	1.9%
H21	977	414	42.4%	173	86	13	15.1%	6	7.0%	87	9	10.3%	4	4.6%
計	4,609	1,709	37.1%	782	335	43	12.8%	22	6.6%	447	40	8.9%	11	2.5%